

企業の推奨資格としても注目高まる 「公認情報セキュリティ監査人(CAIS)資格」

情報セキュリティがますます重要になってくる中、実施している対策が正しく機能しているかを第三者の立場からチェックする「情報セキュリティ監査」が注目を浴びています。JASAは、そうしたニーズに応えるべく、「公認情報セキュリティ監査人(CAIS)資格」を運営し、情報セキュリティに関する人材育成を支援しています。

今回はJASA普及促進部会が平成18年度に実施した「公認情報セキュリティ監査人(CAIS)資格保有者数の増加意向に関する調査報告書」および事務局によるCAIS資格登録者へのアンケート調査を元に、企業における情報セキュリティ資格の価値、資格取得後の活用状況について紹介していきます。

監査人数増加は顧客動向・社員の意向を優先

「監査」のニーズが高まってきた背景としては、日本版SOX法の施行に伴って、システム構築、改善を進めていた企業が、来年度の本格稼働に向けてシステムのチェック段階へ移行してきたことが挙げられます。また、ISMS取得企業がPDCAサイクルをスパイラルアップしていく中で、情報セキュリティ対策、運用管理をチェックする『監査』の重要性が改めて理解されてきたことも大きな流れといえるでしょう。

そこで、公平かつ公正な監査を実施するためには、監査人のレベル、スキルが重要になります。JASAの「公認情報セキュリティ監査人(CAIS)資格」は、監査人の質が一定の水準を満たし、監査を実施する、監査を受ける企業の指標となる資格です。現在、様々な企業がCAISの取得に向けて動きはじめていますが、「CAIS資格保有者数の増加意向に関する調査報告書」を基に、取得企業の動向をお伝えします。

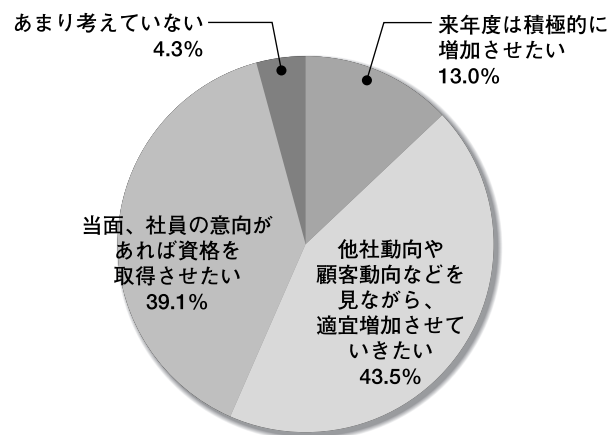


来年度以降に、情報セキュリティ監査人数を増加させることについてどのようにお考えですか？

来年度以降に情報セキュリティ監査人の人数を増加させることについて、「積極的に増加させたい」が130%、「他社動向や顧客動向などを見ながら、適宜増加させていきたい」が435%、「社員の意向があれば資格を取得させたい」が391%と、顧客動向や社員の意向によって、監査人の増加を検討している企業が大半を占めました。(図1)

実際に外部研修実施機関として人材育成に関わっている、リコー・ヒューマン・クリエイツ株式会社リコー情報セキュ

■ 図1



リティセンターの教育推進室室長補佐の飯塚氏は、「先進的な企業がISMS構築もしくは継続的改善のための補強的能力として、または内部統制に関連してITガバナンスの確立強化の一環として監査人資格取得を目指しているというのが、当社が実施しているJASAの外部研修の動向からも見てとれます。昨年、試験的に監査人の資格取得を行っていた企業が、これから本格的に取り組んでくると思われますので、2007年はCAIS取得の機運がますます高まるでしょう」と分析しています。

CAIS取得の意義とは？ ビジネス、能力評価に魅力

CAISの資格を取得する意義について回答を募った結果、「情報セキュリティ専門家としての能力を内外に示すことができる」が391%を占め、「情報セキュリティ監査のビジネスがあり、資格保有者が必要だから」が304%、「情報セキュリ

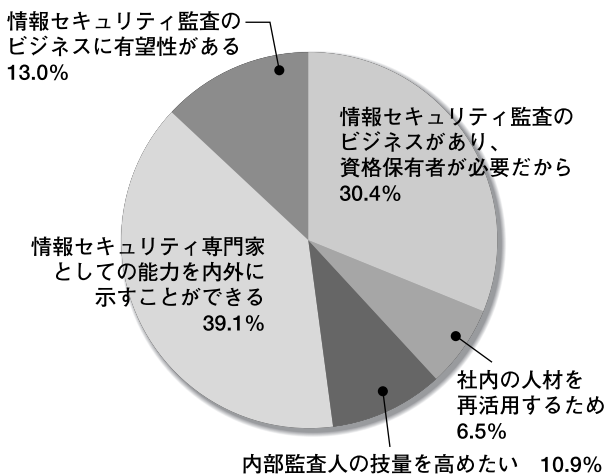
「ティ監査のビジネスに有望性がある」が130%、「内部監査人の技量を高めたい」が109%、「社内の人材を再活用するため」が65%となっています。(図2)

CAIS資格登録者を有する企業では、CAISの価値をビジネスに必要な資格として見ている一方で、監査人における能力の評価、向上につながるも捉えているようです。



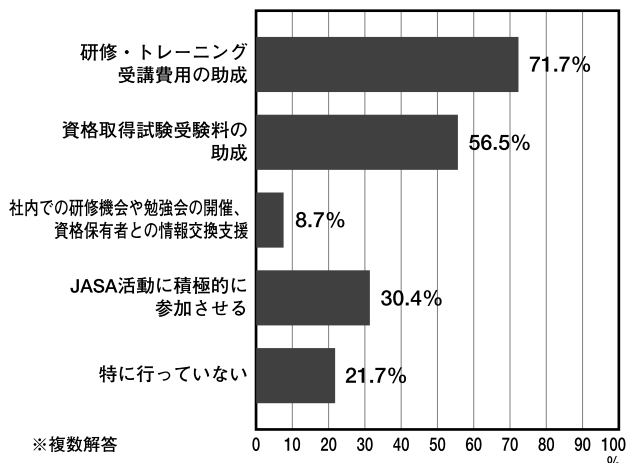
公認情報セキュリティ監査人の資格を取得する意義について、どのようにお考えですか？もっともあてはまるものを1つ選んで下さい。

■ 図2



御社が、公認情報セキュリティ監査人資格取得のために、従業員支援として行っているものについて、あてはまるものをいくつでも選んでください。

■ 図3

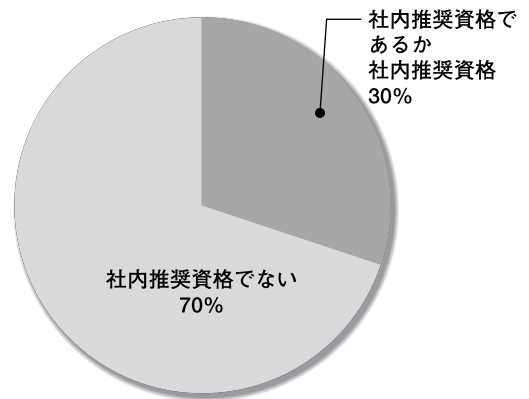


監査人資格取得に対する企業の支援をみると、受講費用助成がアンケート回答企業の約72%、受験料助成が約57%で、

資金的な支援を多くの企業が行っているようです。(図3) また、「社内の推奨資格となっている／取得に関しては報奨金が出る」「現在、社内推奨資格ではないが近くキャリアパスとなる予定」という企業もあるようです。

社内推奨資格であるかどうかを、実際取得したCAIS資格登録者にアンケートしたところ、アンケート回答者の約3割が社内推奨資格であるとの回答を寄せています。(図4) また、「社内推奨資格でない」と答えた中には「誰もがチャレンジできる推奨資格とは異なり、トップダウンで取得するかどうかが決まります」、「役員の指名により受講させる資格となっている」など、企業内におけるCAIS資格の重要性をうかがわせる回答もありました。

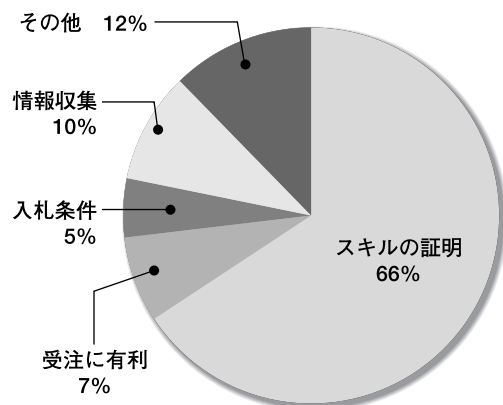
■ 図4



CAIS資格取得者が実際に感じるメリットとは

実際にCAIS資格を取得した登録者は、CAIS取得意義についてどのように考えているのでしょうか。JASA企業アンケートにおいては約4割が「情報セキュリティ専門家としての能力を内外に示すことができるから」としていますが、CAIS登録者のアンケートにおいても6割以上が「監査の一定のスキルの保有の証明」としています。(図5)

■ 図5



CAIS登録者アンケートでは具体的なメリットとして「社内でのパーソナルスキルのPRに有利」「今後のキャリアプランを見据えた、社外活動の活発化ができる」「情報セキュリティ監査能力・経験が一定レベルに達していることを対外的に示せる(個人として・企業として)」といった意見のほか、「勤務先で、情報セキュリティ監査について知識を持っていると理解され、ISMSや個人情報を推進する部署に所属し、内部監査実施の経験をつむことができている」など、個人的なキャリア形成に役立てていこうという姿勢が見られます。

個人的なキャリア形成という点では、現在の所属が監査を実施する部署でない場合、JASAのタスクに参加して監査経験をつむという方法をとることもできます。「会社のエース格にとっては、社内に教えてもらう人がいないため、分からないことは社外の先人に聞かなければならない。そのためにはコミュニティが必要だが、研修・トレーニングの受講⇒資格取得はその第一歩としてとらえている」、「タスクフォースでは、専門技術の知識、経験ある方々と一緒に幅と奥行きのある仕事が経験でき、かつ社会的貢献の一翼を担える」、「模擬体験を通じて、他社の監査を受諾する場合はもちろん、内部監査においても『自己流でない監査』を、自信を持って実施することができるようになった」、「学んだ知識やトレーニングを活かして、自社内の情報セキュリティ監査活動が、公的基準に近い形で実施できる。また、内部監査要員育成も可能」、「学んだ知識やトレーニングを活かして、自社内の情報

セキュリティ監査活動が、公的基準に近い形で実施できる。また、内部監査要員育成も可能」などの意見もあり、自己研鑽の他、後進の指導にも役立てていることも伺えます。

さらなる価値の向上に向けて 認知度アップが鍵

しかしながら、一方に「知名度が低いため、CAIS資格のメリットが感じられない」との声があることも事実です。

今年度、社内の情報セキュリティ上級資格にCAISを採用した、株式会社アイネスの竹内一夫管理本部リスク管理室長は、「新規のお客様と仕事を始める際には、ISMS取得の有無は必ず問われますが、CAISはまだ残念ながらそこまでには至っていません」と課題を挙げます。

リコー情報セキュリティセンターの飯塚氏も、「ISMSは市場が形成されているため研修が多く開催されています。CAISはまだコースの申請、講師なども含め、制度をさらに発展するための仕組みを強化させる必要があるでしょう。また、CAISの認知度を高めていくことが今後ますます重要になってくると」と、認知度アップがCAISの価値を高めることにつながると述べます。

JASAは今後も、情報セキュリティ監査制度の理解を深め、監査人であることのメリットを理解いただけるよう普及促進活動に力を入れていきます。

活用事例

情報セキュリティ維持、向上に社内資格としてCAISを採用

株式会社アイネス

CAIS取得に向けて活動を始めている企業の中には、社内推奨資格として採用し、社内キャリアパスにする動きも見られます。ユニークなのは株式会社アイネス。情報セキュリティ対策の一環として本年度よりCAISを採用しました。同社の管理本部リスク管理室長、竹内一夫氏にお話を伺いました。

竹内氏 当社はリスク管理室を主管部門に情報セキュリティ対策の向上に取り組んでいます。特に力をいれているのが社員教育。個人情報保護及び情報セキュリティに関する社内資格試験を独自で実施しています。初級試験は当社で働くすべての人を対象に定期的に試験を行い全員合格を義務付けています。中級試験は各部門でのセキュリティ対策の推進役を認定するもので部門長推薦で受験できます。問題は論述もありかなり高度です。現在まで80名が合格し活躍しています。

上級試験は、議論の結果、当社のビジネスに貢献するレベル、つまり、お客様へ情報セキュリティ監査やコンサルティングができることが相応しいという結論に達しました。例えば、当社の強みである地方自治体向け事業では、市役所の個人情報保護や情報セキュリティ全般を監査し、改善提案できる人材が不可欠となっています。しかし、世の中に通用するレベルの試験を独自で行うことはできません。社外の資格をいろいろ調査したところCAISに出会いました。CAISは、まず現場の業務経験を活かし監査人補に挑戦し、その後、監査人、主任監査人とステップアップできるところが大きな魅力です。また、JASAが公団体監査にも注力されており、当社のビジネス戦略とマッチしていたため採用を決定しました。

なお、CAISは社内資格と位置付けていますから取得や更新費用については全額会社負担としています。